



一般社団法人
香川県中小企業家同友会



同友会の三つの目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強固な経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業家が自主的な努力によって、相互に資質を高め、

誰が為に

～事業承継の先に見つけた人生の道標～

富田肥料(株) 富田文平

2025年 年詞会【第6回青全交研修会】

『誰が為に』 事業承継の先に見つけた人生の道標

【講師】 富田肥料(株) / 代表取締役 **富田 文平氏** (広島同友会)

理想の事業承継とは？

弊社は1950年に私の祖父が「農は国の礎」を掲げて創業しました。今でも創業の精神として大事にしています。元々は肥料の製造から始まり、現在は肥料の販売をする農材事業部。化学薬品や消耗品雑貨を販売する商事部。輸出入を代理で行う海外事業部の3つが事業の柱です。

科学が進化しても肥料の考え方は、広義では肥料は作物が完成成長するために必要な要素全てです。必要な栄養が一つでも漏れていると作物は完全に育ちません。お客様である農家さんに必要な肥料を届け、作物がしっかり育つまで寄り添うことが、この仕事の面白いところです。

私は、最低限の事業承継は、持ち株50%以上が譲渡

されている。社員、お客様、仕入れ先の引き継ぎが円滑に行われている。土地などの権利が引き継がれている、この3つだと思っています。でも私が思い描いた理想の事業承継は、誰もが笑顔で船出を祝福してくれることでした。しかし私の事業承継は、当初の理想とはかけ離れたものになりました。

みんなの笑顔の為に

サラリーマン時代、実家に帰ると父の背中が小さく見えました。二人の姉は商売人と結婚しており、後継は自分しかいないと感じました。そのとき「帰ってきてくれないか」と言う父の言葉が決意を促し、皆の顔が頭に浮かび広島に帰ることにしました。

帰郷後、家族で食事をしたときに父が経営の目的は

「会社の存続と社員、家族の幸せのため」だと教えてくれました。家族は和氣藹々、意気投合しました。

入社後すぐ、自社の問題が見えてきました。社員の平均年齢は60歳を超え、資金難や重要なお客様の流出で売上が大幅に減少しました。このままだと会社は5年持たないという思いと、父への不満が募りました。

何よりも営業の拡販が最優先でした。新たな仕入れ先の開拓やキャッシュフローの改善、システム導入、新規事業立ち上げが必要でした。父は営業拡販や新規開拓は応援してくれましたが、他のことでは「やかましい」と言われ、感情的な衝突が続きました。

中でも、若手社員の免許取り消しと採用のトラブルが特に深刻でした。物流部

の将来有望な若手社員が飲酒運転で免許停止になり、父は雇う価値がないと主張しました。私は社員を集め

経緯を話し、彼に仕事を見つめようと相談しました。採用のトラブルは、私の新規事業に共感した社員に関することです。採用した矢先、彼の元の会社社長さん

が現れ、顧客に手を出さない条件で移籍が許可されました。彼は売り先を失い、新規開拓を余儀なくされました。保育園や学校にビニール手袋やマスク、プール用の塩素の販売を始めました。彼は自身に子が無く、子どもと関わりたかったと話し、私は父を説得して新規事業を続けました。

喧嘩が続く中、同友会で「いつ事業承継をするか期限を話し合うといい」という話を聞きました。父に伝

えようしたのですが、流れで「親父いつ社長辞めるん？」と言ってしまった。父は「そんなに言うなら明日からお前が社長をせ

い！」と激高。父との関係が決定的に悪くなったことを同友会の先輩に相談すると「中小企業は血で継ぐんよ」と諭されました。

衝突の日々にも修復がありました。母が仲介役となり、その度に父と仲良くなるものの、すぐ元通り。母の努力も追いつかず、次第

に父とは話さなくなりました。私が帰らない方が父は幸せだったかもしれないと思っていました。

漏れていた栄養

もやもやを抱えたまま2020年に代表に就任しました。二代表制に就任のため、私は登記するだけでした。父は74歳。父が引退すれば今より楽になるのか不安でした。

満たされない自分を変えたくて、同友会で勉強しよ



講師／富田文平氏

うと思い部会長を引き受けたり、全国に出たりしました。その結果、売り上げは増加し、会社は若返り、新規事業も進展し未来が見えてきました。それなのに父との関係は悪化する一方でした。

ある夜、「不機嫌なお父さんは何を考えて仕事しているのかわからん」と言ってしまうしました。父は「お前の幸せだけ考えている」と真っ直ぐ私を見て言い返しました。父の本音を聞き、情けなくなりました。この

夜、「ぼくもお父さんのことを考えている。ごめん」と伝えました。

父と通じ合うために、同友会の仲間を真似て、毎週月曜日の朝は仕事以外の話をするミーティングを始めました。ぼつりぼつり何気ない会話が、しばらくして、父が久しぶりに笑いました。予期せぬ笑顔に私は涙し、父の笑顔が見たかったと気づきました。

家族での和気藹々した食事の記憶が蘇り、私の幸せが漏れていたことに気づき

ました。会社や家族の笑顔のために働いていました。父の笑顔は忘れていません。母から「お父さんも同じように悩んでいた」と聞き、月曜日に「今週も一緒に頑張ろう」と声を掛け合った時、初めて本当に事業承継できたと感じました。

理想の事業承継

事業承継後の自社の変化では、飲酒運転で免許を失った彼は努力して社内の信頼を得ました。免許を再取得し今でも物流部の柱を担っています。もう一人は、

は経営者冥利につきます。

もう一つの変化は、事業の広がりを含み込むための経営理念ができたことです。「農は国の礎」は創業の精神に位置付け、経営理念は「我々はこの国の礎を支える」としました。また、父の思いを汲み、私の志を乗せた経営者理念もつくりました。新しい経営指針発表後、社員から飲みに誘われました。「共感しました。一緒に誇れる会社にしなすう」の言葉に嬉しくて泣きました。



商事部門の売上を年二千万円から一億五千万円に成長させました。彼が担当する部門では、保育園や学校向けに、彼の苗字に因んで「ヒナサポ」を展開。コロナ禍では園長先生から感謝の電話を受けました。彼らの活躍

経営理念やビジョンは、誰の為に働くかという問いの答えです。笑顔にしたい人たちのために生きる道が私の経営者としての使命です。父が笑顔でバトンを渡してくれたから、理想の事業承継ができたと思います。

誰が為に



昨年、父は楽隠居しましたが、二度倒れました。回復し元気になっていますが、親子の関係を取り戻せてよかったです。最後の言葉が「やかましい」でなくて済みました。今、経営で悩むと心の中にある先代に問いかけます。そこにはいつも笑顔で答えてくれる父がいます。

今の事業は先代がいたからこそです。過去の決算書を見比べると、私が高校生から大学生のとき、経営が

苦しかったことが分かりました。父は数字を戻すために苦労していたはずですが、当時はそれを見せませんでした。これが数字に直結しないことには無駄遣いするなど反発した理由だと理解しました。

私の事業承継で最も悪かったことは、人間関係を諦めかけたことです。水やりをやめれば花は枯れるように、関係をきずくために努力し続けるべきでした。

私の事業承継は、円満な親子関係に戻ってやっと終

【ご臨席いただいた来賓の皆様】

- | | |
|---------------------------|---------|
| 香川県／商工労働部 産業政策課長 | 佐々木宏樹 氏 |
| 香川県教育委員会／教育長 | 淀谷圭三郎 氏 |
| 高松市／創造都市推進局 産業経済部長 | 幸田 安隆 氏 |
| 多度津町／町長 | 丸尾 幸雄 氏 |
| 株式会社百十四銀行／取締役 常務執行役員 | 菅 弘 氏 |
| 株式会社香川銀行／常務取締役 | 土居 裕昭 氏 |
| 高松信用金庫／常務理事 | 長井 政成 氏 |
| 香川県信用組合／理事長 | 右川 俊二 氏 |
| 独立行政法人中小企業基盤整備機構 四国本部／本部長 | 樋口 光生 氏 |
| 日本労働組合総連合会香川県連合会／会長 | 福家 良一 氏 |



わりました。最低限のドライな部分と、心豊かなウエットな部分が必要でした。数字を追求するあまり、心が満たされていなかったことが問題でした。中小企業は、先代と後継者が近い関係だからこそ感情が絡みず、親子や他人に関わり

あるからこそ、「中小企業は血で継ぐ」のだと今思っています。皆さんの理想の事業承継は何ですか？誰の為に働き、誰の笑顔が見たいですか？欠けている笑顔はありますか？誰を笑顔にするべきか、その先に人生の道標があります。



実行委員長のまとめ

2025年 年詞会 実行委員長

(有)キムテック／代表取締役 **木村 裕士氏**
(高松第4支部)

全国の年齢を問わず青年の志をもった経営者が集う会、全国青年経営者交流会(青全交)を見据えて自社と同友会を成長させる、2025年 年詞会【第6回青全交研修会】を開催し、会員、来賓、ゲストの総勢146名が参加しました。

冒頭の開会あいさつでは、小西代表理事が「景況感は回復基調にあるが、依然として会員企業を含めた県内中小企業は厳しい経営状況にある。今年は青全交を見据えて会員企業が成長できる活動を推進していく」と話しました。

年詞会の報告者として、富田肥料(株)／代表取締役の富田文平氏(広島同友会)に事業承継をテーマにご講演いただきました。

経営は「誰の為」か? 「幸せの源泉」は何か? 事業承継の枠にとどまらない、参加者の人生を変える報告でした。事業承継を失敗したと思っていた、様々な事件を切っ掛けに真の事業承継ができたとも語っていただきました。

事業承継を通じて見出した人生の指針や覚悟に、多くの参加者が深く共感し、涙を流す場面も印象的でした。私もこの学びを活かして、よい経営に努めてまいります。

第2部：賀詞交歓会では、行政・金融機関・教育機関・他団体から10名の来賓が参加し、交流を深めました。香川県教育委員会の淀谷教育長からは、「地域の未来を担う若者のために共育型

インターンシップを引き続き広げていただきたい」、多度津町の丸尾町長からは「南海トラフに向けて行政として防災に力を入れている。災害時の地元中小企業の協力体制に期待する」、香川県信用組合の右川理事長からは「世界の先行きが見えない中で中小企業経営は難しい局面にあるが、当行として支援していく」とあいさつをいただきました。「上げ潮じゃ～ 上げ潮じゃ～」上げ潮コールで温かい雰囲気の中、中締めとなりました。

最後に、今年は自社と同友会を不離一体で成長させて、県内一丸となって11月の青全交を成功させましょう!!

